

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年2月18日

【評価実施概要】

事業所番号	0174300350		
法人名	医療法人社団 田中医院		
事業所名	グループホーム すずらん・らいらっく		
所在地	北海道厚岸郡厚岸町門静1丁目69番地 (電話) 0153-53-2900		
評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成21年2月18日	評価確定日	平成21年3月9日

【情報提供票より】(平成20年12月26日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 平成 15年 9月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 19人, 非常勤 1人, 常勤換算	17人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋建て	造り
	1 階建ての	～ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	10,000～13,000 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(30,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 円		1ヶ月 40,000 円

(4) 利用者の概要(12月26日現在)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名
要介護3	9 名	要介護4	5 名
要介護5	3 名	要支援2	
年齢	平均 85 歳	最低 76 歳	最高 98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 田中医院・町立厚岸病院・秋田歯科医院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療法人を母体としたホームではリハビリに力を入れ週1回、同法人経営の通所リハビリテーション内でパワーリハビリテーションを行っている。日曜・祝日以外は病院長の訪問診療があり、必要に応じて作業療法士などの訪問もある。職員間の意思の疎通も良く、会議等においてもそれぞれの職員が意見を述べあいながらより良い介護を目指している。利用者の重度化、終末期にもご家族や医師と話し合い、職員の意思統一のための会議も密に行うことにより対応している。今年度は屋外でホーム祭りをを行い、たくさんの方たちに参加していただくことができた。散歩時に庭に咲いているお花をいただくなど徐々に近隣での関係もできてきている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価での改善課題はなかった。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は時間をかけて行った。自己評価表を職員誰もが見られるところに置き、それぞれの職員が気がついたことを記入していった。その評価表をもとに会議で話し合い、決定している。今回の評価では歩行・排泄等、自立支援に力を入れることを確認している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	今年度の運営推進会議は、評価日現在5回実施されています。主な主題は ①町と近隣地域でのリハビリについて ②行事案内について ③現状報告について ④共用型認知症通所介護について ⑤外部評価のアンケートの協力依頼について
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見や苦情などはこのホームが良くなるために必要なことだということをご家族に伝えている。意見や苦情などはミーティング等で必ず報告し、話し合って運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の行事に参加するほか、利用者がもともと住んでいたところの行事にも参加している。また、今年度はホーム行事に多くの方たちに来ていただき、地域の方たちとの関係を深められた。「来年度も行っていきたい」という住民の方たちの声を受け、継続できるよう計画している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員が話し合い、ホーム独自の理念を作りあげている。利用者及び利用者代理人・身元引受人の権利のなかでも「地域の一員として生活をし、選挙その他一般市民としての行為を行えること」を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全員で共有できるように、誰でもが見られる場所に理念を掲示しているほか、ミーティングや申し送り、日々のケアに関する話しにも取り上げ具体化できるように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の方たちの中に顔見知りも増え、散歩の時に花をいただいたりフキなどの山菜や畑で採れた野菜を持ってきてくださる方なども増えてきている。また、地域の行事に参加しホームの行事にも来ていただくなど様々な交流ができるよう努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員が時間をかけて行い、話し合いを経て決定している。重点とすることなども話し合われ具体的な改善に向けて取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの運営や取り組み状況などについて意見や話し合いを行いサービス向上に活かしている。ご家族全員に運営推進会議の案内を行い、自己評価・外部評価の結果などについても報告している。話し合われた内容については職員・ご家族に必ず報告している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の福祉課から毎月1回、介護相談員が派遣され、利用者とコミュニケーションを取りながら意見、不安、苦情なども聞き取ってくださっている。このほかにも様々な形で町とのかかわりがあり、連携しながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、ホームの全体状況の他、写真などを添えた手書きのお便りで報告している。又、金銭管理についても報告している。必要時にはその都度電話連絡などで詳細に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、不満、苦情などは良い施設となるために改善すべき点と受け止め、ご家族にも伝えている。意見や苦情は、必ずミーティング等で話し合い運営に反映させている。運営推進会議はご家族全員に案内し外部者へ意見等の表明ができる機会をつくっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職はできる限り少なくなるよう努力しているが、異動などがあつた場合には残った馴染みの職員とのかかわりを多くし、新人研修でホームの理念や認知症介護の基本的な対応、利用者個々人の細かな特徴などを伝えながら関わってもらうこと等で利用者への影響を防ぐ配慮を行っている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅴ. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修の他、グループホーム協議会が主催の研修会などへの参加も積極的に行っている。研修参加後には報告レポートを書き、一週間以内に会議等で報告するようにしている。資格取得に対しても法人として協力を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会を通じての、交換研修を行っている。また、研修会等での交流や近隣のグループホーム職員との交流も行い、サービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談を受けた時点で訪問し、困っていること、不安、生活歴などの把握をしている。その後、事業所を見学してもらっている。共用型認知症通所介護が始まってからは通所介護のため通ってきていたことで場の雰囲気などにも慣れ入居された方もいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理のお得意な方に魚のさばき方や刻み方などを教えていただいたり料理や後片付け、掃除など一緒に行いながら支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で表明された希望などを聞き逃さないようにしている。言葉での表明が困難な場合には表情に注意し、ご家族からの聞き取りも行いセンター方式を活用しながら、安心して楽しみを持ちながら暮らせるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族の訪問時に話しを聞き、担当者がカンファレンスまでにアセスメントシートを書き介護支援専門員と介護計画の打ち合わせをしている。カンファレンスでは他職員や必要に応じて作業療法士、医師などの意見も取り入れて介護計画を作成している。介護計画の期間については個別に設定している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じての見直し以外にも、記録や担当者及び他職員の気づきをもとに話し合い現状に即した介護計画の見直しが行われている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同法人の通所リハビリでパワーリハビリを週1回行っている。共用型認知症通所介護も始まっているほか、本人の希望に応じて町外の大規模店舗での買い物など、なるべく本人の希望が実現できるように支援している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日曜、祭日以外は毎日、母体法人の院長が往診を行っている。職員との関係も築かれ、必要に応じて本人やご家族への説明も行い、気軽に相談できる関係を築いている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期には、母体法人の医療機関と連携して話し合いをしている。職員間でも話し合いを密に行い意思の統一を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	○J T資料等を職員一人ひとりの振り返りのために活用するほか、個々への対応等が誇りやプライバシーに配慮したものになっているか等についても話し合いが持たれ必要な場合には改善策がとられている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	だいたいの食事時間などは決まっているが、「買い物に行きたい」などその日の利用者の希望をできる限り優先して過ごせるようにしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理がお得意な利用者と共に準備を行ったり、茶碗洗い、テーブル拭きなど一人ひとりのできることを活かしながら行っている。食事の時には職員が必要な方の介助を行いながら一緒に談笑しながら食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	できる限り希望の時間に入浴できるようにしている。又、気の合う利用者同士背中を流しあったり職員が介助をしながらお話をしたり入浴剤を入れるなど入浴が楽しめるように工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	牛乳パック切りや食事の準備や後片付け、掃除などの家事、花壇や畑仕事、編み物や縫い物、麻雀、将棋、俳句など希望に添って役割や楽しみごと、気晴らしができるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の散歩や買い物の他、隣接している東屋での外気浴、外に設置したベンチでの茶話会、昼食などできるだけその日の希望に添って戸外に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	立地のことなども配慮し鍵をかけている時間もあるが、利用者が出かけたという希望等には添えるようにしている。	○	今後も話し合いをしながら解錠に向けて検討していこうとしている。

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	防火管理者が設置され、年2回利用者も参加した避難訓練を実施している。災害時の集合場所なども決められている。今後も地域との連携を図りながら訓練に努める予定がある。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取量、水分量が記録されている。月に3回ほど管理栄養士の訪問があり、献立のチェックをするほか個々に対してもアドバイスをもっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広く、ソファのスペースや食卓のスペースなどの他、食卓から見える場所にある和室には季節により雛人形などが飾られている。壁には利用者が作った俳句や職員と一緒に作った季節のタペストリーなどが飾られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはソファやタンス、冷蔵庫などが持ち込まれている。懐かしい起き上がりこぼしやお孫さんの結婚式の写真、ひ孫さんの写真なども飾られ居心地のよい部屋になるよう工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。